

教育センターだより

話を「きく」とはどういうことか

—共通問題の有無による「ききかた」の違いへの懸念—

南砺市教育長 松本 謙一

1 共通問題がある授業での批判的な聞き方

多くの授業には、共通問題(共通課題)がある。よく見かけるのは、黒板の上の方に四角く色チョークで囲まれた問題がそれにあたる。多くの場合、この問題に対しての自分の考えをもつための時間が設けられ、その後に、考えの発表を紹介する時間が設定される。その際聞き方の助言として先生が放つ一言が、

T:「自分の考えと比べて聞かれ」

であり、聞いた直後の子どもの反応は

C:「僕、ちょっと違うよ」、「別の考えがあるよ」

など、各々が自分の考えを紹介していき、比較の場が生まれるというものが多い。



この話の聞き方には、次のような特徴がある。

- ・話し手が何を伝えたいかという話し手の思い(この場合、『私は、こんなふうに考えた私だよ』という思い)については考えず、『話した内容』だけを聞く。この考えに立つと、だれが話したかは無関係で、話した内容だけが抽出されることになる。
- ・話を聞く視点は、「自分の考え」であり、話し手の考えを批判的に聞く。

立ち位置でいうと、話し手と聞き手は、真正面から向かい合う形の聞き方なのである。

この聞き方では、話し手の考えが間違っていた時、聞き手から「それ違うよ!」などと、どちらかという攻撃的な立場で反論され、その結果として、話し手は『二度と自分の考えをみんなの前で話したくない』という思いに駆られるのである。

2 共通問題がない、くらしの中での共感的な聴き方

これに対して、くらしの中での友達の話の聴き方を考えてみよう。

A:「きのう、わたし、困ったことがあったの…」

B:「何があったの?」

A:「実はね……」



この話の聴き方には、次のような特徴がある。

- ・「何があったの?」と、話す内容を理解しようとしているように見えるが、そうではなく、Aさんの「困っている思い」を理解しようとして聴く。
- ・話を聴く視点は「自分」ではなく「話し手」であり、話し手を理解しようと共感的に聴く。(自分の考えは一度は置いて、自分の考えをもつ前に、まず相手のことを丸ごと分かって聴く)

立ち位置でいうと、話し手の横に寄り添って聴く、あるいは、話し手の懐に入って聴くという形になる。

この後の展開は、

B:「分かる……、Aさんは……なんだね」

などと、すぐにBが自分の考えを紹介せず、まず、Aさんを受け止めている自分であることの紹介から始まる場合が多い。

この場合、Aさんは、『自分のことを分かってもらえた、話してよかった』という気持ちになれる場合が多い。

3 両者の比較

この2つのきき方を比較した時、明らかに後者の聴きの方が、和やかな雰囲気になり、話し手もうれしい気持ちになれるのではないだろうか。

2つのきき方を授業の話し合い場面に用いた場合を想定してみると、前者には、短時間で教える内容に到達できる、あるいは議論の内容が深まるよさがあるものの、その結果、殺伐とした雰囲気の学級になってしまうのでは

ないだろうか。

また、前者には「共通問題」が必要となる。共通問題がある授業においては可能であるが、そうではない状況では、この聴き方は難しい。

しかし、学校の授業で、前者のような聞き方を何度も繰り返し訓練されると、その聞き方が板につき、どんな場合でも、話し手の対面から見下すような位置に立って対応をしてしまうことが、当たり前だと思ってしまう子供が育ってしまうのではないだろうか。

前者の「共通問題」がある場合でも、挙手して発言しようとする子どもには、『自分の考えを分かってほしい』という思いが存在する。

このように考えると、後者の聴き方は、「共通問題」が有ろうと無かろうと可能なのである。学校での授業も、どんな場合であれ、内容だけを聞くのではなく、「話し手の思い」を含めての話し手を丸ごと理解しようとする聴き方ができる子どもを育てる必要があるのではないだろうか。

4 育てたい子どもの姿に迫るための聴き方指導

では、話し合い場面でどんな手続きを踏むことが大切になってくるのだろうか。

- ① 話したりつぶやいたりした子供を指名し、話し手とすることを基本とする。
(先生の指名による話し手には、『わかってほしい、伝えたい!』といった願いや思いが薄い場合が多いため)
- ② 話し手が話し始める前に、聞き手に対して「〇〇さんは、みんなに何を分かってほしいのかしっかり聴こう」などと、話し手を丸ごと理解していこうとする聴き方を促す)
- ③ 話し手には、最初に伝えたい思いや願い・考え(結論)を短く述べ、そのあとに事実に基づく説明をするように、話し手の指導をしておく。(結論が最後だと、何を伝えたいのか聞き手がはっきり分からないために、共感的な聴き方がしにくくなるため)
- ④ 話し終えたとき、聞き手に対して、「聴いてみてあなたはどう思いますか?」ではなく、「〇〇さんは、みんなに何を伝えなかったのだと思う?」などといった「〇〇さん」を主語にした答え方ができる場を設定する。(こうすることで、たとえ話したことが誤りであっても、「〇〇さんの思い」として共感的に受け止めてもらえたことを、話し手が実感できる)
- ⑤ ここで初めて、聞き手に「・・・をみんなに伝えたい〇〇さんをどう思うか(〇〇さんの話を聴いて、みんなはどう思うか)」などと、聞き手の思いや考えを述べる時間を設定する。

5 問題は、先生の立ち位置・聴き方の構え

実は、なかなか後者のような聴き方ができないのが学校の先生なのである。(これは「先生」の『性(さが)』なのだろうか。

「そうは言うけど、授業には『ねらい』がある!それに時間がかかりすぎる。」

先生は、つつい『ねらい』を盾にして、子どもの『願い』の受け止めに軽んじ後回しにしがちになる。確かに『ねらい』は大切であろう、しかし子どもは『先生のねらい』を知らないのである。教師のねらいを達成するだけのために行う授業では、決して「主体的な学び」は成立しない。遠回りのようだが、教師も子どもも、仲間の考えをそして話している仲間そのものを丸ごと共感的に聴こうとするあたたかい集団づくりをしていきたいものである。

6 「協働的な学び」の充実を目指して

今日的な課題として、『個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実』が叫ばれている。今回の提案は、より質の高い「協働的な学び」を実現するうえで有効ではないかと考えている。

それは、「協働的な学び」の説明に以下のように述べられているからである。

探究的な学習や体験活動などを通じ、子供同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することも重要である。

(令和3年答申 p.19, 教育課程部会における審議のまとめ p.4)

この説明の中で注目したいところは、「あらゆる他者を価値のある存在として尊重し」の部分である。

- ・話し手の思いを考えず、話の内容だけを聞く
 - ・自分のために、自分の活動や考えに役立つことを見つけるために聞く
- このような聞き方では、到底話し手を尊重することはできない。話し手を自分と同じ追究者として認め、まず話し手の思いを共感的に受け止めてはじめて話し手のよさを実感でき、互いに尊重し合える関係づくりにつながるのではないだろうか。

話を「きく」とは、話し手を丸ごと受け入れ、理解しようと聴くことであり、このような「聴き方」を身に付けることが、どんな相手にでも通用するコミュニケーションの基本になると考える。

●市教育センター研修会報告

※ 各研修会の詳細や他市センター担当の研修会の様子についてはHPでご覧ください。

授業力向上研修会(ステップアップ研修)

- 実施日 ①6月26日(月) 上平小 ②7月7日(金) 福野小
③7月12日(水) 井波中 ④10月17日(火) 城端中
⑤11月21日(火) 城端小 ⑥11月28日(火) 福野小
⑦12月6日(水) 福光中 ⑧1月19日(金) 平中
⑨1月24日(水) 福光東部小
- 講師 南砺市教育委員会 松本教育長
- 参加者 7~9年次の先生方26名、各校教務主任又は研究主任、当該学校の教職員、砺波市・小矢部市の教員、希望者 他
- 内容 ・事前・事後研修会と公開授業を通して、授業力向上を目指す
・充実した事後研修の進め方について学ぶ



<参加者の感想より>

小学校教員が中学校の授業を参観した感想

- ・中学校の授業を初めて参観した。小学校と異なり、短い指示でテンポよく授業が進んでおり、大変驚いた。小学校でも中学校へギャップを感じることなく進学できるよう、指導を工夫していきたいと感じた。
- ・初めて中学校の音楽科の授業を参観して、レベルの高さに驚いた。教育長がおっしゃったイメージが先か、物が先かという話は図画工作科にも共通すると感じた。子供の発言の内容だけではなく、学習に対する態度も認めて褒めていきたい。

中学校教員が小学校の授業を参観した感想

- ・小学校の授業を参観するのは久しぶりだったが、中学校とは違う発達段階、授業を受ける児童の姿勢に驚いた。ここまで指導されているのなら、もっと生徒は伸びるはず、と信じて、明日からの授業、頑張っていきたい。
- ・子どもたちはとても元気で、先生や児童同士の信頼関係も構築されており、話しやすい雰囲気でもとてもよいと感じた。友達の悩みを自分ごととしてとらえ、解決策を深めておられ、発問の仕方等大変勉強になった。友達の発表を聞くとときなど、日頃からのルールづくりも徹底されていて参考になった。

授業者の感想

- ・課題設定の仕方や考えさせる活動での視点の大切さなど、学びの多い時間でした。このような貴重な機会をいただきありがとうございました。
- ・追究学習の中で、子供たちが同じベクトルで話し合いができるように、子供の問題学習をしている生き様を教材とすることや、子供たちが考えたくなるような教師の問いかけ方をする(おどけてみせる)こと、子供をほめることなど、たくさんのことを学んだ。次に活かして頑張りたい。

他地域から参加された先生からの感想

- ・教職大学院から参加させていただきありがとうございました。学校内の研修をどのように作っていくか考えている私にとって、事後研のスタイルを学ぶことができました。校内研修の場で全員が参加できる研修の実施に活かしていきたい。

●第2回ふるさと学習情報交換会

- 日 時 令和6年2月27日（火） 15:00～16:30
- 場 所 南砺市役所
- 参加者 小・中・義務教育学校 総合的な学習の時間担当教員 16名
- 内 容
 - ・ふるさと学習の取組を振り返り、成果と課題について情報交換(中学校区ごと)
 - ・来年度に向けての修正点、学習の成果を発表する場の検討について

中学校区ごとあるいは同規模の学校ごとに集まり、6月の第1回目の情報交換会の際に共通理解した内容についての今年度の振り返りを行いました。新しい取組を行い、来年度に向けて発展させていこうとされている学校や小学校で培った力を中学校でどのように生かしていこうかと話されている学校など、前向きな話し合いができました。



●調査研究委員会

事業名	活 動 内 容	成 果 や 課 題
理科資料 (小学校)	理科資料「流れる水のはたらき」の改訂、印刷（令和6～8年使用）	<ul style="list-style-type: none"> ・観察地点の様子等が変化しているため、掲載する画像を現在のものに変更した。 ・ITCEの協力を得て、動画にQRコードを付け、タブレットでも見るができるようにした。
体力づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・体力・運動能力調査の結果をデータ分析する。 ・報告書の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力・運動能力を高める効果的な指導法について研修し、啓発を図る。 ・運動習慣及び運動能力を高める効果的な運動の事例や指導法について、体力の要素ごとに動画を作成し、報告書内にQRコードを記載し、タブレットで再生できるようにした。
ICT 推進	<ul style="list-style-type: none"> ・情報活用能力の指標を作成 ・デジタル・シティズンシップ教育に関する効果的な教材の検討 ・「遠隔協働学習」に関わる取組の事例の収集 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じた南砺市版情報活用能力の指標を作成した。 ・ICTを安全にそして責任をもって活用し、自律と問題解決を促すための効果的な教材について検討し、有効な教材の一覧を作成した。 ・来年度、事例集作成に向けて「遠隔協働学習」に関わる取組の事例を収集している。

今年度も、市教育センターの諸活動にご理解とご協力をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。
これからも、先生方のご要望を反映し、実りある活動を進めていくことができるよう努めていきたいと思っております。
今後ともさらなるご理解とご協力をお願いいたします。